

前略 いつも適切な委員会運営を頂きまして、大変ありがとうございます。

委員会の初めての現地調査も行われ、いよいよ本格的に委員会で様々な討議がなされる段階に入ってきたと認識しています。

これまでの実質二回の委員会では、委員会等の運営方法、情報公開のあり方などが議論されました。委員会のプロセスについて真摯な議論を行うことは大変重要な事項であると考えます。

同時にこれらと平行して実質の議論を行い、武庫川の位置づけや役割、緊急の洪水対策や防災対策はもとより、総合的な治水のあり方を始め、流域各市の地域づくり、都市づくりの中でどのように武庫川水系を捉え、利活用していくのか等幾多の課題が山積しています。

これらの課題や問題点のとらえ方は委員各位それぞれでかなり異なると予想されます。委員間の意識にかなりの差異が存在するまましばらく議論を進めるという方法もありますが、2カ年という時間は長いようで結構短いと考えます。

そのようなわけで、私なりに今回の計画をどのような幅と内容で検討すればよいか、最終の目標をどこに置けばよいか試案をまとめてみました。常にこのようなマトリクスのフローを手元に置き、それぞれの議論がどの部分に当てはまるのか、必要な議論に抜けがないかなどチェックしながら委員会運営ができればより効果的かと思います。できましたら 6/10 の運営委員会で皆さんにお計り頂ければと考えています。

大前提としまして、

武庫川流域委員会として検討する対象はどこまでか

私案・・・主体は武庫川水系の河川区域であるが、総合治水、地域づくり、都市づくり等提案区域として流域全体を対象とするべきであると考えます。

調査計画主体はどこか

私案・・・当然河川管理者である兵庫県であるが、必要に応じ委員会が追加調査や資料を要望できるし、場合によっては委員会が直接調査を行うこともあると考えます。

以上の前提の上で別紙A3版の計画策定フローを提案します。当然、抜け落ちている項目、最終アウトプット項目についても様々なご意見が多々あると思います。皆さんで議論頂き修正を行ったうえで決める必要があります。

また、上記のような幅と様々な専門分野にわたる検討を短期間に行うには、委員会の中に専門分科会（部会）をもうけて具体の検討や協議を行い、全体の委員会で総合化を図るという方法も必要と考えます。

以上、差し出がましいこととは存じますがよろしくご検討頂ければと思います。

